

第26回 日本環境感染学会総会

深谷 美保

シスメックス株式会社 学術部

去る2月18日(金)・19日(土)、パシフィコ横浜において第26回日本環境感染学会総会が開催されました。日本環境感染学会は、医療関連感染の制御に関わる様々な医療関係者と研究者の方々によって構成されており、会員数7,000名を超える学会です。患者と医療従事者の安全と健康を守るために必要な知識と技術についての経験や研究成果について、毎年、多くの演題が発表されています。

今年は、本学会が発足して四半世紀の節目にあたり、大久保憲会長(東京医療保健大学医療情報学科/大学院感染制御学)、森兼啓太プログラム委員長(山形大学医学部附属病院検査部)のもと、「参加者が感染対策に関するディスカッションを十分に行える場とすること」を主眼に据え開催されました。

新型インフルエンザの世界的大流行がすでに終息期に入った一方で、近年では多剤耐性菌による院内感染が世界各国において問題となっています。こうした背景を受けて、今回の学会総会では、CDCの「手指衛生のガイドライン」や「消毒と滅菌のガイドライン」、「カテーテル関連血流感染防止のガイドライン」などの国際的な感染制御ガイドラインを作成された6名の著名な先生方が米国およびスイスより参加されて講演されました。また、針刺し事故や血液体液暴露、訪問看護における感染予防策などに関する教育教材を集めたDVD視聴会など、日常の感染対策活動のヒントとなるようなセッションが数多く実施されました。一般演題においては、「組織としての活動」や「職員の教育・啓発」など、より質の高いチーム医療を目指した取り組みや、耐性菌の出現を防止するための「抗菌薬の適正使用」を実現するための工夫、医療従事者の安全について考える「針刺し損傷」、さらには「医療廃棄物の適正処理」まで、様々なテーマについて医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の方々が発表され、非常に活発なディスカッションが行われていました。

本学会において行われたシスメックス・ビオメリュー社共催のランチョンセミナー 11 についてご紹介します。

ランチョンセミナー 11

『一市中病院における多剤耐性菌対策：ICT としての挑戦』

司会：東京大学大学院医学系研究科

病因病理学専攻感染制御学 森屋恭爾 先生

演者：虎の門病院 臨床感染症部・臨床感染症科

荒岡秀樹 先生

本ランチョンセミナーでは、虎の門病院 臨床感

染症部において ICT (Infection Control Team) の中心として院内感染対策に取り組んでおられる荒岡先生より、まず現在問題となっている各種耐性菌の特徴や耐性菌を減らすための方法について、基礎的なポイントをご説明いただきました。また、ICT の活動状況について、抗菌薬適正使用や医療従事者の標準予防策・接触予防策の徹底や研修医の教育など、多方面からのアプローチにより得られた成果や効率の良い ICT 活動のポイントを、実際の経験を踏まえてご紹介いただきました。セミナーは大変盛況で、予定数を超える 133 名の方々にご参加いただきました。



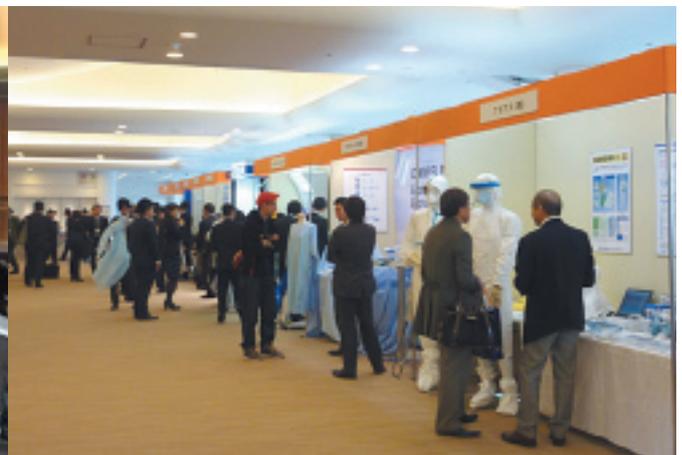
森屋恭爾 先生



荒岡秀樹 先生



ランチョンセミナー会場



展示会場